

## 発表

## 城西現代政策研究会

城西現代政策研究編集委員会

現代政策学部は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、政策学を中核とする課題発見・解決のための幅広い分野の学びとリベラルアーツ科目の学びにより、生涯にわたり自律的に学び続けることができ、高い倫理観を持ち社会貢献できる人材を育成するとともに、地域社会とグローバル社会の新しい価値を創造し、人類文化の発展に寄与する研究を行うことを理念とします。

そこで城西現代政策研究編集委員会では、本学部の教員等の研究を奨励することにより、本紀要「城西現代政策研究」への投稿等がより活発になることを目指し、「城西現代政策研究会」を立ち上げることとなりました。

初年度である 2019 年度の研究成果の発表は、以下の通りです。

第1回 2019年6月28日（金）

発表者と個別テーマ：土屋正臣「文化政策における文化財保護行政の位置：  
70年代以降の埼玉県文化行政の分析」

第2回 2019年10月25日（金）

発表者と個別テーマ：青柳龍司「個人住民税と年金課税のあり方」

第3回 2020年2月7日（金）

共通テーマ：「大学におけるハラスメント対策（諸外国編）」

発表者と個別テーマ：市川直子「フランスの場合」

真殿仁美「中国 ハラスメントの現状と防止に向けた取り組み  
～問われる研究者としての自覚」

リッチー・ザイン「ケニアの大学において

ハラスメント調査とシンポジウムの参加」